

合格体験記 (AO方式入学者選抜)

第 I 項 学芸 学部 メディア創造 学科

出身高校名 聖リリア学院高等学校

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

自分の好きなことを学問として学べる環境が充実しているからです。「作る」仕事をして誰かに喜んでもらいたい。芸大や専門学校ではなく、デザインや広告制作の理論を学んだうえで、それを活かした制作をして幅広い知識と経験を得られることから、このメディア創造学科にたどり着きました。また、キリスト教であることや、他の大学と比較しても学生へのサポートが手厚いことも決定の要因となりました。

- (2) AO方式入学者選抜を受けようと思った理由。

はじめは公募推薦からの受験を考えていましたが、先生に相談するとAO入試の第I項の出願資格を満たしていることを教えていただきました。やりたいことが同志社女子大学にあるという熱意と、中高をミッションスクールで学んだことを学科の内容につなげて、直接自分も大学に知ってもらうことで、学力だけでなく現実に足りない力を見てもらえると思い挑戦しました。準備する書類などが多いので大変ですが、自分を見つめ直す良い機会にもなったと思います。

- (3) AO方式入学者選抜においてアピールした活動、経歴、資格等。

美術部や今までの創作活動、バザーにて自分の作品が人の役に立つように試行錯誤した経験、また福祉委員として社会奉仕をした経験などから、将来自分が作るデザインや表現を活かして人の役に立ちたいという夢をアピールしました。特にプロテスタントには、「自分が神さまから授けられた能力を賜物として社会へ還元する」考えがあるので、私は自分の創作意欲も、どう社会に貢献できるかを考えました。また、第I項なので、キリスト教の他者との関わり方、考え方の成長なども掘り下げました。

- (4) 出願書類作成や面接で心がけた点。

〔出願書類作成〕

志望理由書では、自分の夢やそのきっかけ、大学でやりたいことなど、自己アピール書は、部活動やボランティアから自分の成長したことを書きました。課題レポートでは、「つながる」というテーマで、コロナ禍で混乱する現代社会において、発生する分断を乗り越えるためにどうすべきかを考えて書きました。日本だけでなく世界中に目を向けて、視野をなるべく広く持つことを心がけました。また、その中でも自分ができていることを考えて、経験や成長、大学での学びへとつなげました。

〔面接〕

どんな質問が来ても答えられるように、十数回も面接練習をしました。自分の考えをうまくまとめられるように、ノートを書いて整理したり、私の場合は多様性、表現、人のために行動をテーマに回答におおまかな方向性をもたせるようにしました。同志社女子大学で学ぶことの必要性を伝えられるように、建学の精神、アドミッションポリシー、教授やゼミ、カリキュラム、行事、聖書の箇所なども調べました。オープンキャンパスに3回行ったことも熱意の表れとしてアピールしました。

- (5) 選抜を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私は本当に直前まで自信がなかったのですが、何事もポジティブに捉えるように心掛けて、「自分ならできる!」と言い聞かせることでなんとか気を保っていました。多少失敗しても熱意と自信があればきっと大丈夫だと思います。自分のことで精一杯になり視野が狭くなりやすい時期かもしれませんが、周りの人を大切に、そして体調管理は本当に気をつけて。応援しています!